55 美濃伝日本刀鍛錬技法

美濃伝日本刀鍛錬技法は、大和・山城・相模・備前と並ぶ五ヶ伝の1つで、中世の鍛刀技法としては五ヶ伝の中で最も新しいものです。現在は保持者として加藤孝雄氏と後藤良三氏が認定されています。

美濃伝の刀は「折れず、曲がらず、よく切れる」が特徴で、高度な技術である「四方詰め」という特色ある鍛刀技法を生み出し、発展させてきました。また、五ヶ伝の中で唯一、有力武将の庇護などを受けず、鍛冶仲間の自主的な組織が生産から販売までを行う市井の経済活動として、途絶えることなく今日まで伝承されてきました。現在も後世に伝承されるよう後継者育成が行われています。



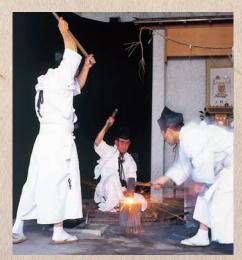
▲加藤孝雄氏(写真中央)

関め探訪

その32

関の「文化財」を紹介します。

照会先 文化財保護センター ☎ 46-2313



▲後藤良三氏(写真中央)

豆知 識

四方詰め鍛錬法一軟らかい鋼を中心にして、その四方を硬い鋼で固めて刀を作る鍛刀技法

アクセス

関鍛冶伝承館

長良川鉄道・刃物会館前駅から徒歩約5分 東海北陸自動車道・関ICから車で約10分 東海環状自動車道・富加関ICから車で約15分

※毎年1月2日、3月・4月・6月・11月の第1日曜日、10 月の刃物まつり開催時に、関鍛冶伝承館で古式日本刀鍛 錬および外装技術の公開を実施しています。

広報せき No.1625 2013.3.1